

研究主題

メンターの活用による若手教員の育成
～ 課題解決する学級活動のすすめ方 ～

大阪市立関目小学校

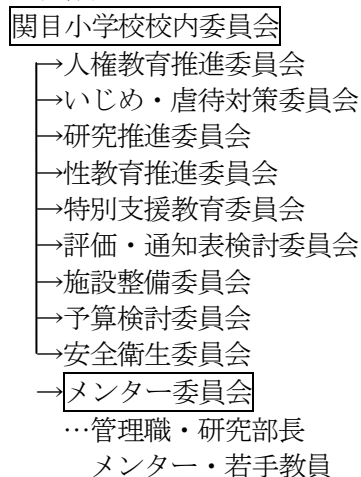
1. 取組内容

本校は、今年度新任教員が2名配置され、経験年数10年程度までの若手教諭（8名）が全体の教諭（16名）の半数を占めるようになった。このような状況の中で、今、問題になっているのが『授業の指導力 - 教科等の目標を踏まえた専門性を高めた実践的指導力』と『学級の経営力 - 学級経営方針の確立と具現化に向けた指導性』の向上である。

「子どもたちの学力を高めたい」「子どもたちが安心して過ごせる温かみのある学級づくりをしたい」などの思いがある。

そこで、これらの思いの実現のために、本年度からメンターを中心とした「若手教員による指導力向上委員会（メンター委員会）」を設置し、計画的な研修等を実施して、若手教員の育成を目指すこととした。

<組織図>



2. メンターの感想

10月の公開授業にむけて、メンター研修で指導案検討を複数回行い、その都度学級活動のポイントとなる観点の共通理解を図ったので、若手教員が日々の学級経営に実践できたようである。また、2月に実施した近隣小中学校の若手教員を招いた実技研修会では、なわとびの実技指導を通して、互いの情報交換ができてよかった。

3. メンティの感想

○ 子どもが主体となる学級活動であるが、子どもの意見をどのように集約し、どう導いていくのかがよく分かった

[新任男性教員]

○ なわとび実技研修で紹介された技（とび方）を、さっそく翌日の体育科の学習でクラスの児童に紹介したところ、目の色を輝かせて練習していて驚いた。

[3年目女性教員]

4. 成果と課題

本年度は2名のメンターで、相互に連絡調整を行いながら研修を進めた。特に実技研修会の実施については、管理職を通じて講師を招聘することができたので、より研修の内容が深まった。また近隣小中学校の若手教員を招いたことで、研修内容とともに相互に情報交換が行えたことも予想以上の成果が見られた。

次年度以降も、本校の年間研修計画に明確に位置づけ、定期的な研修会の開催と進めていくとともに、日常の授業見学についても学校全体で若手教員の育成を支援する体制作りの中で、積極的に進めていく。特に本年度末でベテラン教員が多数退職・転勤し、複数名の若手教員が配置される予定であるので、しっかりとした組織・体制を構築し、ともに指導力向上を目指していく。